



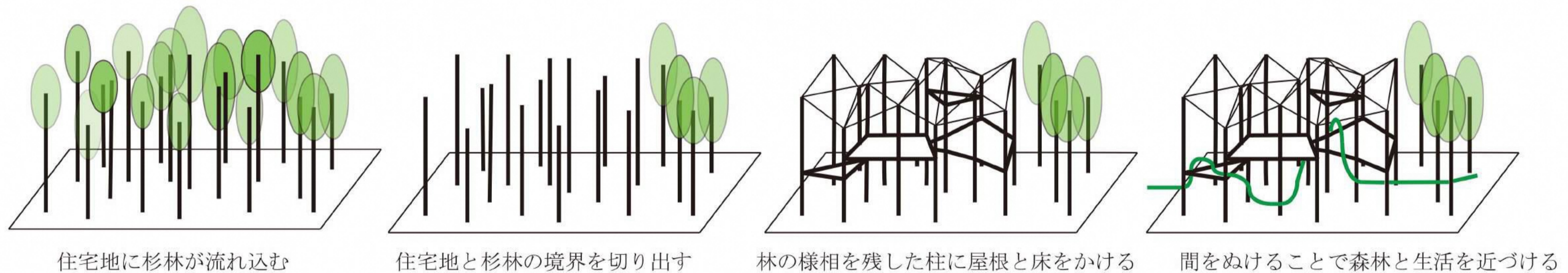
自然を引き込む家

北山の新しい景色を目指して

設計趣旨

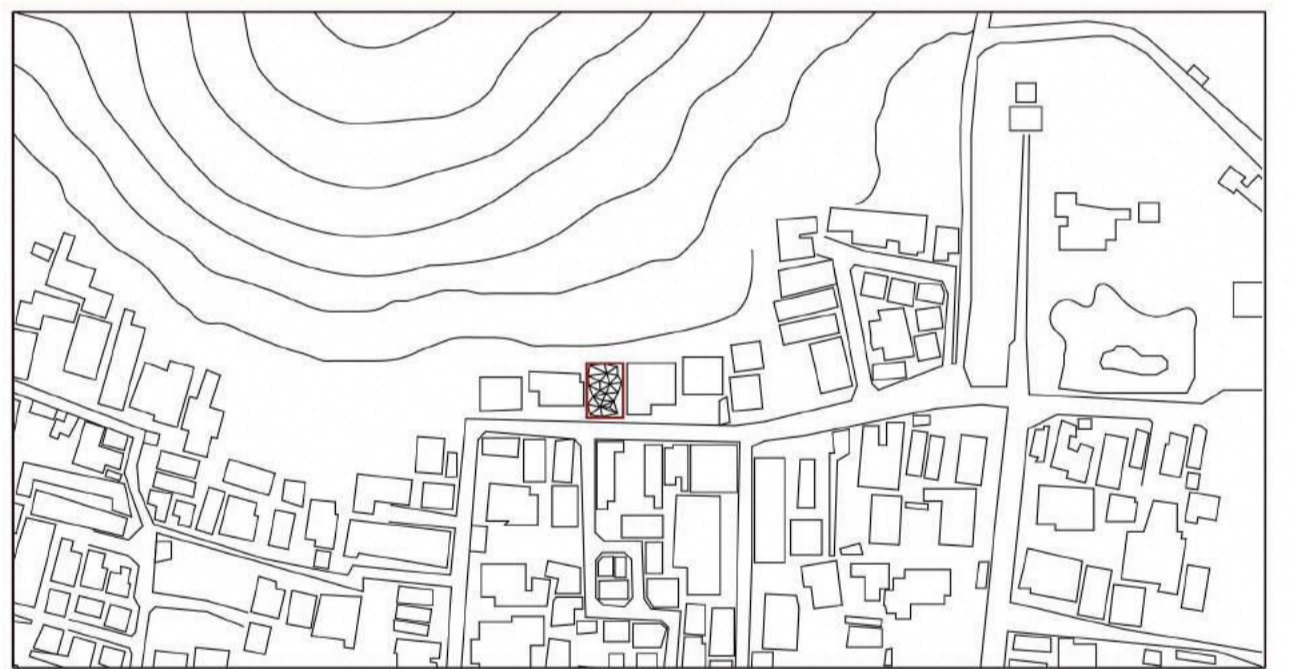
京都の北山は北山丸太の生産地をはじめとし、多くの山林、鴨川の親水地域などの自然環境を有している。しかし、住宅においてはそれらの環境との関りを持たない閉じた住宅が並んでいるのが現状である。そこでこの地域から生まれた北山丸太を丸太柱として使用し、住宅地に杉林を流れ込ませた様に柱を乱立配置する。その柱間で住居空間と自然へとつながる緑の道を配置し、自然環境を居住空間へと引き込む住宅を設計することで北山という地域の新しい形となる住宅を提案する。

ダイアグラム



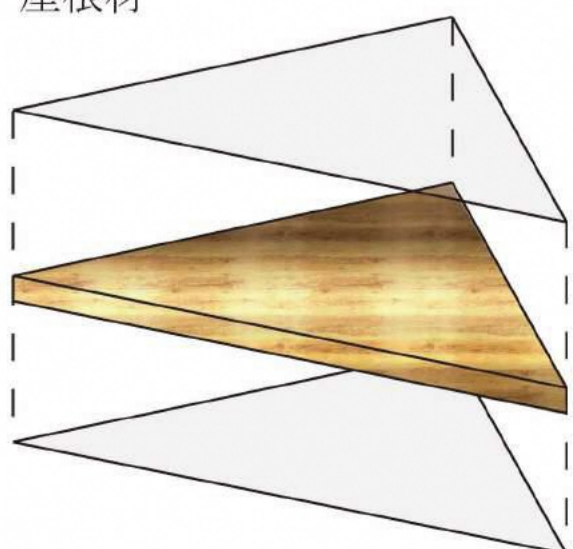
敷地説明

敷地は京都北山駅から徒歩 20 分程度に位置する郊外住宅地であり、住宅地と森林のエッジ部分を対象とする。背後には森林を有し、鴨川までも 800m 程の場所である。周囲の住宅は比較的大きめの住宅地であるが、背にした森林との関係性は無視した住宅が立ち並んでいる。



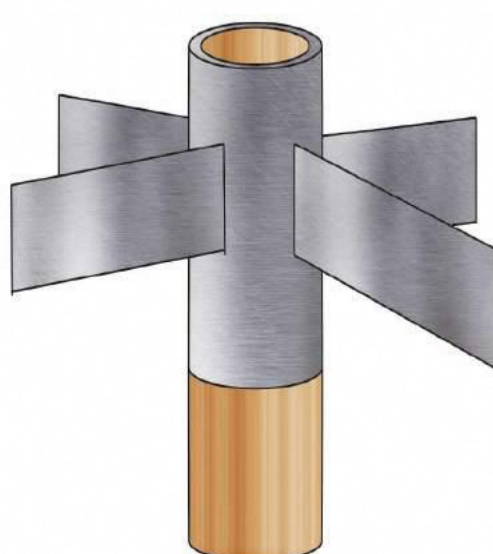
構造説明

屋根材



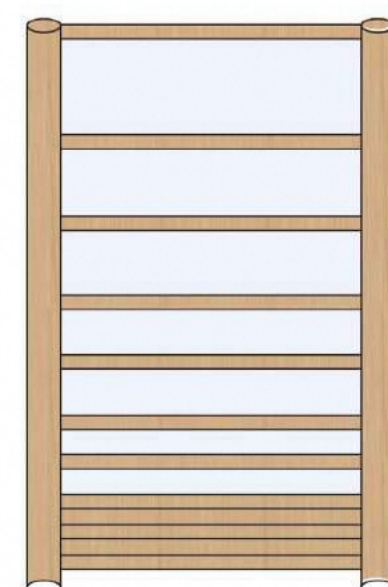
屋根は木造屋根の骨格に構造用合板を張り、それを二枚のガラスコーティングの施されたテント膜で挟んだ形態をとっている。膜を用いることで屋根の軽やかさを演出し、丸柱の垂直性を際立たせる効果が期待できる。

結合金具

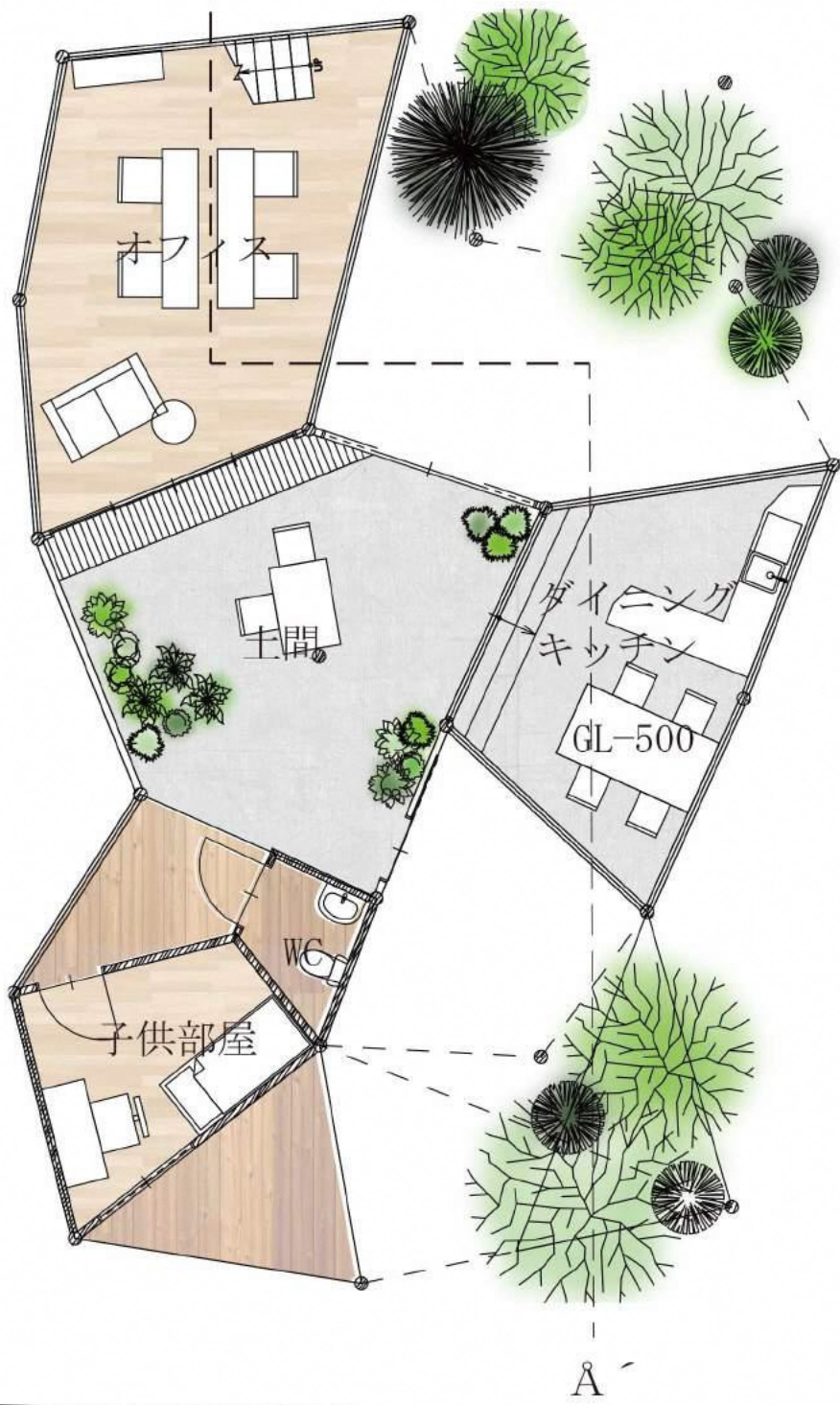


丸柱間をつなぐ梁などの軸組においては、丸柱にはめ込む金具を用いる。これにより、自由な角度に自由な本数の丸太同士の接合を可能にしている。

貫

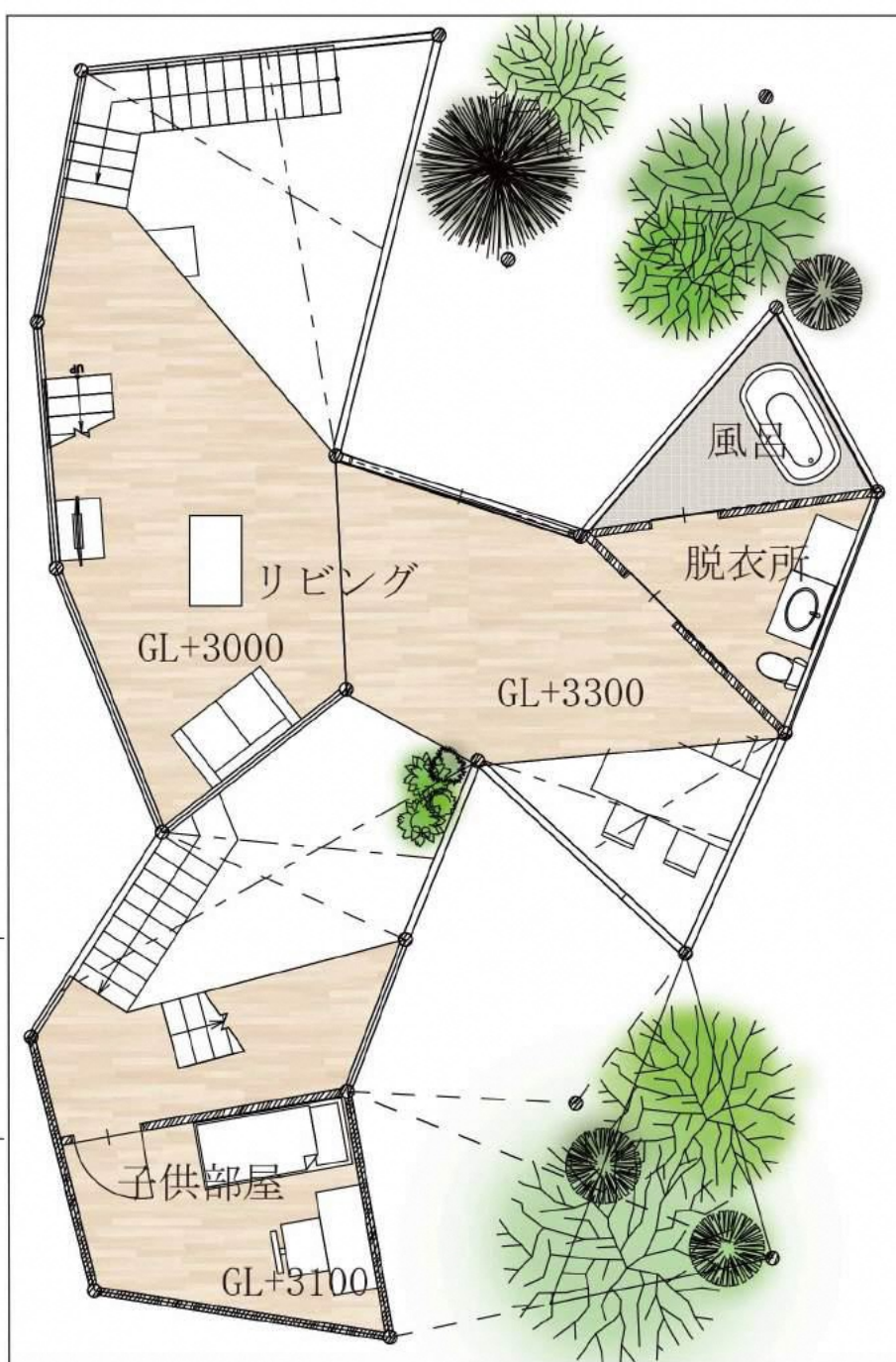


柱間には小径の北山丸太を、ルーバーとして視線を遮り、同時にぬけも演出しているが、構造材としては柱間を支える貫としての役割も担っている。

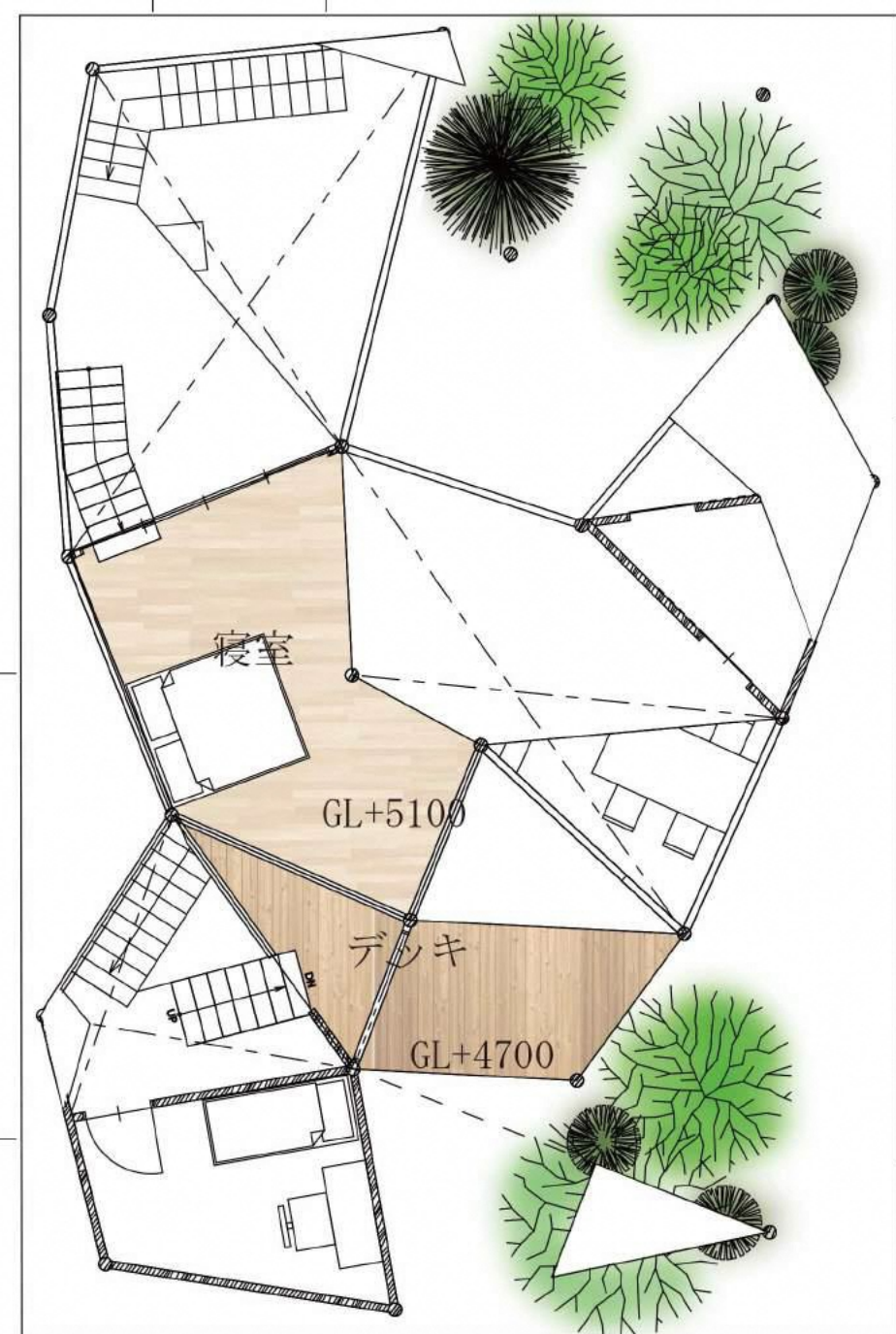


1階平面図 S=1:100

エントランスから土間を介した緑が多く配置された道により、裏手の森林へと住人を引き込む。またその緑の道に土間を用いていることでダイニングキッチンやオフィス、リビングを全面開放することも可能であり自然環境を室内へと引き込む効果を期待できる。



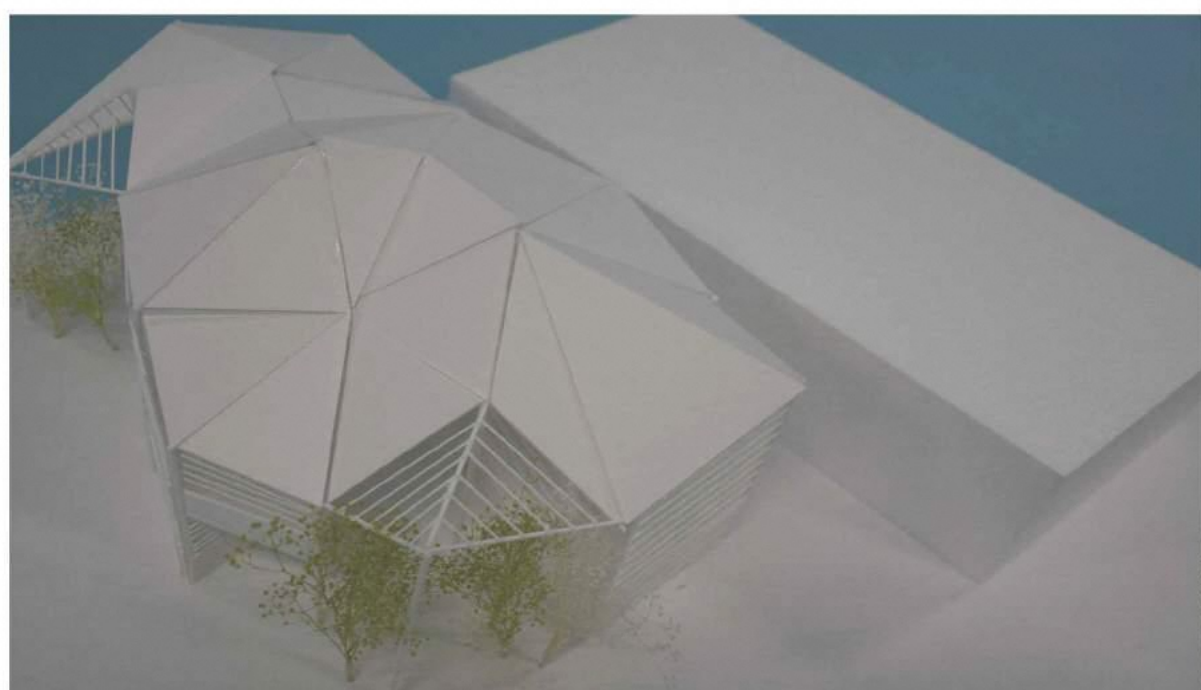
中層階平面図 S=1:100



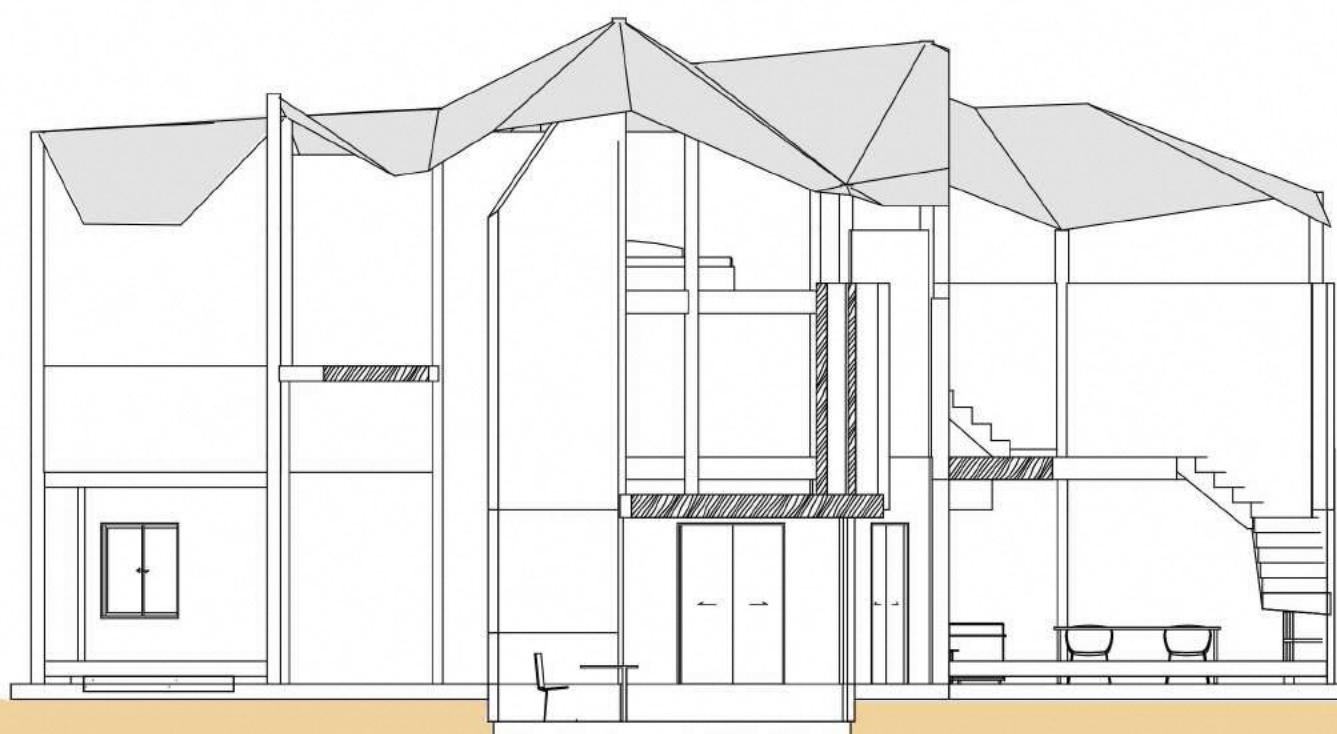
上層階平面図 S=1:100



道路側に対しても小径の北山丸太をルーバーとして用い、外部からの視線を遮りながらも採光、居住者から見た視線のぬけを保っている。



ガラスコーティングされた膜は雨水や汚れを弾き、柱に対する天井の軽やかさを演出している。またトラス型の梁に構造用合板を合わせた構造体である。



A-A' 断面図 S=1:100

